

令和3年11月

no.

97

よめばやさしくなる  
しゃきょうの  
こうほうし



# 福祉くまの

コロナ禍での社協活動

# コロナ禍での社協活動

## 地域福祉事業



それでも  
つながっていたい

人と会わない。なんとも寂しいですが、これが一番の感染症対策です。人と触れ合い、人の気持ちを感じ取りながら住みよいまちづくりに向けた活動が地域福祉の根幹ですが、様々な活動制限により事業の休止及び中止が相次ぎます。地域福祉の根幹が揺らぐ中、「それでもつながっていたい!」、「これまでのつながりは途切れさせない!」というこれらの想いを胸に秘め、熊野市社協では、現状でできる**つながる方法**を実践しています。以下ほんの一例をご紹介します。

### ①手紙でつながる

「人とつながっている実感は活力の大きな源になる!」といったことを念頭に置き、一人暮らしや高齢者夫婦世帯を中心とした約200世帯を対象に、職員の手作りメッセージカードを配布しています。配布後は「**温かいメッセージをありがとう**」といった、とてもうれしい声をお寄せいただきました。ちよっとしたこと、活力アップにつながるのかもしれませんが、もちろん、私たち社協職員の活力にもなりました。配布には、地区の福祉委員や、民生委員の皆さんにご協力頂きました。

### ②戸訪問でつながる

※ 飛鳥町日進地区で実施する『みいつカフェ』。休止により地区の皆さんと長らくお会いできなかったため、せめて近況だけでも伺おうと、ボランティアさん1名、担当職員2名の3名で、よく参加頂く方々のお宅を訪問しました。少しの時間でしたが、顔を合わせられた良いひと時でした。※社協と地域住民とで運営するサロン事業。

### ③お茶会もつながる

※ 集まって活動できないなら、自宅でできることを考える。おうた事業に参加頂く地区の皆さんに脳トレ資料を配布して、自宅でできる活動を提案させて頂いています。これからは、**自宅でできることをみんなで共有する方法**も有効です。定期的なお届けもので本人と地区、社協とのつながりを切らさないよう心がけています。※小地域で実施。レクリエーション、昼食など、みんなで楽しく過ごす事業。

### ◆感じたこと

感染症対策が必要なことは言うまでもありませんが、活動休止期間が長引くことで、地域がもつ福祉力の低下や、身体の距離だけでなく心の距離までもが離れてしまい、孤独感を抱く人が増えることにつながるの、避けたいものです。収束を望む一方で、時代に合った地域福祉活動への良き転換期と、前向きに捉えています。

## 福祉サービス事業



安心できる  
サービス提供



介護保険事業、障がい福祉事業は、多くの方々と直接触れ合う仕事です。新型コロナウイルス感染症に対しては、「**感染しない(させない)**」「**感染を拡げない**」を第一に考え、職員一同、全力で取り組んでいます。予防対策を始めた当初は、「利用者様のご家族が発熱している」「ご家族が感染多発地域から帰省された」「濃厚接触者と特定された」などの情報が交错し、感染対策とサービス提供の狭間で、どのように対策すれば良いのか頭を悩ませました。**職員が感染すると、次々と感染を拡げ**てしまうという恐怖がとて大きく、ついつい過敏に反応してしまい、精神的疲労が積もっていったことを覚えています。現在は、この地域での感染が少ないこともあり、基本的な感染症対策を徹底し、法人で作成した**新型コロナウイルス感染症マニュアル**に基づき活動していますので、対応に悩むことは少なくなりました。しかし、まだまだ油断できる状況ではなく、これからも起こりうることにすぐさま対応し、皆さんに安心してご利用いただけるサービス提供に努めます。

## 法人運営事業



働き方改革

### 新

新型コロナウイルス感染症の大流行によって社会が大きく変貌し、働き方も変化しつつあることは、皆さんご承知のことと思います。熊野市社会福祉協議会も、緊急事態宣言下であることを意識し、可能な部署では**テレワーク**を積極的に取り入れたり、職員がどこからでも、法人のデータにアクセスできるよう**システムの構築**を行いました。また、職員の定例会議についても、それぞれ自宅出席する**テレビ会議**を採用するなど、万が一熊野市で大流行した際に備えて、準備を進めています。この状況がいつまで続くのかは分かりませんが、コロナ禍をきっかけとして、急速に進む**デジタル化社会**に**対応できる組織**をつくり、住民の皆さんにとって、更により良い提案と、サービスの提供が行えるよう、職員一同がんばります。





おめでとう！  
おめでとう！  
おめでとう！

8/27

満百歳記念事業  
川村いづるさん（祖母町）



息子さんご夫婦と暮らしているご自宅にお伺いしました。港町ならではの、お魚が好物で、食欲も旺盛だそうです。「痛いところがない」そうで、これが長寿の秘訣であると話してくださいました。とてもお元気で、温かいご家族に囲まれ、これもご本人の長寿につながっていると感じました。

10/15

有城八千代さん（育生町）

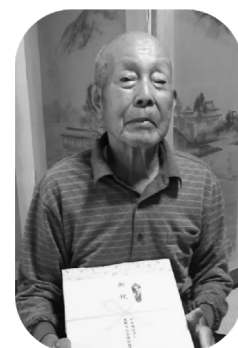


現在もお風呂やトイレ、爪切り等、自分の身の回りのことは基本的に自分でやっています。足が不自由だとおっしゃっていましたが、姿勢もよく二本の杖でしっかりとした足取りで、とてもお元気でした。家族で協力して見守っているそうで、とても温かいご家庭であると感じました。

9/20

ご長寿祈念事業

今年今 年満95歳になられる24名（該当者は56名）を対象に、今後ますますのご健康とご長寿を祈念するため訪問しました。みなさまとてもお元気で、コロナ禍ではありますが温かく迎えてくださいました。



第8回熊野市老人福祉大会

とき：令和3年11月9日（火）13時30分  
ところ：熊野市民会館



高齢者福祉事業への功労者（団体）に対して、表彰及び感謝状を贈呈します。

第7回熊野市老人福祉大会



※時間短縮、人数制限の設定等、大会規模を縮小して行います。



熊野市社会福祉法人連絡会  
からのお願い

市

内5社会福祉法人（紀和会、杏南会、清光会、ひまわり会、熊野市社会福祉協議会）では、経済的に困りの世帯に対する「熊野市食糧及び物品提供事業」を実施しています。現在、提供できる食糧品の在庫が少ない状況です。ご自宅にお譲り頂ける食糧品がありましたら、事務局（熊野市社会福祉協議会）までご連絡下さい。

担当 地域福祉係 伴



事業の詳細については、

コチラから↓



ボランティアのことなら

3 熊野市ボランティアセンター

☎ 519-4324 熊野市井戸町 1150 番地 でんわ：0597-89-5000 F A X：0597-89-3068

ふだんの  
そなえを  
わすれずに♡



無料法律相談

- ◆開設日 11月16日(火)  
12月21日(火)
- ◆相談員 片山眞洋 弁護士
- ◆会場 保健福祉センター
- ◆時間 13時から(一人15分)
- ◆相談内容 民事全般  
(相続、離婚、雇用、他)
- ◆予約 前日の15時まで
- ◆担当 地域福祉係 伴(ばん)



リサイクル情報

ご家庭で使わなくなった介護用品や乳幼児用品、また、「譲ってほしい」という品物を登録し、地域でリサイクルする制度です。  
リサイクルに関する情報は、  
①熊野市保健福祉センター掲示板  
②ホームページのリサイクルのページ  
どうぞ。

◆担当 地域福祉係 都竹(つづく)

コチラから



いろいろしゃべるよ

今年も10月1日から「赤い羽根共同募金運動」が全国ではじまりました。熊野市でも例年通り・・・といいたところですが、コロナ禍でするので、縮小済みで実施しています。でも「地域の福祉みんなで参加」の思いは例年通り。できる限りがんばって運動しています。そして、その思いはくましゃんも同じです。  
今年はずっと・・・  
しゃべるくましゃんです!!  
募金をする、イスに座ったくましゃんが、かわいい声でいろいろしゃべります。まるいお金の募金でしゃべりませんが、だからこそ、ついつい何度もおしゃべりを聞いてしまうかもしれせんね。保健福祉センター玄関右側にいます。近くにお越しの際は、ぜひおしゃべりを聞いてあげてくださいね。



ぼく、くましゃんだよ

くまちがいさがし

よいよお鍋のシーズン到来です!! あ、くまちがいさがしもお忘れなく!  
答えは8つ! 当選者(3名)にはかわいいくましゃんマグカップをプレゼント!



①はがきに文字で答えを書いて送る②この絵に記入して、はがきに貼って送る③この絵に記入して、写真を撮って「おてがみ」から送信する  
はがきの送り先 ☎ 519-4324 熊野市井戸町1150番地  
熊野市社会福祉協議会くましゃん宛  
「おてがみ」の送り方 ☎ 熊野市社協HP「おてがみ」から。  
または、右のQRコードから。



令和3年11月29日(月)まで

前回の当選者  
と答え  
竹内貴美子さん  
東美和さん  
平子せつ子さん

おめでとうございます!



熊野市社協の歴史がわかる!?

熊野市社協ホームページでは、この広報紙「福祉くまの」のバックナンバーを公開しておりますが、ようやく合併前の広報紙のデジタル化が完了し、全世界の人々が閲覧できるようになりました。旧熊野市、旧紀和町の匂いが心地よく(?) 漂うものも多々ありますが、それもこれも全て熊野市社協の歴史です。興味のある方は一度アクセスしてみてください。

あともがき

熊野市社協広報紙のバックナンバーはコチラから



約2年、いわゆる人が集まる活動が制限された。社会が大きく変化しました。経済、文化、その他、社会の機能回復のために戻すべきところは戻るのでしようが、これを契機に、取って戻さないものも多々あるようです。▼コロナの影響とは全く関係ありませんが、数ヶ月前から、長年の習慣「朝寝坊」を卒業し、できた時間ていろいろ家の用事を済ましています。お恥ずかしい話、年齢50にして「早起きは三文の得」の意味と効用を痛感しています。▼変えるという行動には、大きなエネルギーを必要とするので、ついついそれを惜しんで、変えたい選取をしがちです。でも、変えないことで逃している幸せが沢山ある気がします。良くなかったらすぐやめればよいのだし、これからも良いと思うことを積極的に選択しようと思います。(あきひと)

